

北区民まちづくり会議 文化・観光の分野に係る部会 摘録

日 時：平成26年10月28日（火）午後6時30分～8時

場 所：北区役所大会議室

【主な発言】

■自己紹介

○部会長

この会では、観光・文化をフォーカスして、それぞれの委員の実感として、「できているところ」「できていないところ」を考え、意見交換したい。まずは委員の自己紹介をお願いします。

○委員

北区に住んで20年、その前は南区に20年。家には寝に帰るだけなので、北区のことは知らないこともある。市の100人委員会メンバーとして活動している。新たなソーシャルビジネスの立ち上げを考えている。

○委員

北山街協同組合の代表理事を務めている。中京区でも店をしている。商店街といえば、アーケードがあって、建物の1階が店舗で2階に住んでいるというイメージだが、北山街では、店主はほとんど住んでいない。また、組合に入っていない店舗もある。府の「陶板の庭」の管理を受託している。上賀茂神社の献灯まつりに関わっている。

○委員

人づくりネットワーク委員会委員をしている。平成18年、19年には高校のPTA連絡協議会の会長をした。警察署長のときは、地域住民との関わりを大事に取り組んだ。今は保育園でも活動している。北区をより良くしたい。

○部会長

中京区出身。家業は家紋の手書き。東京の出版社で仕事をした。外国を周った。その中で、イタリアのペルージャにおいて「京都には世界遺産が17もある」と言われ、京都の素晴らしさを再確認した。今は、クリップという企画会社をしている一方で、京都精華大学で教鞭もとっている。

委員の皆さんのそれぞれの体験などから外からの視点も大事にして、意見を出してもらえればよいと思う。

■北区の特徴

○部会長

中京区は、最近、マンションの建設など建物・まちなみの変化が大きい。ある意味、「東京チック」だ。それに比べて北区は景色やまちなみが変わらない。私が高校時代の友人の家がそのまま残っていたりする。

○委員

北区は、地下鉄の駅から地上に上がってきたときの空気がおいしい。歩いていて心地いいというのは、北区の特徴の一つだと思う。

○部会長

空気は確かにおいしい。人や建物の密度が高なくて、山が近いからかな。

○委員

母が、毎日、数時間、賀茂川を歩いたら健康になった。

○委員

北区は確かに歩きたくなるまちというところがある。昨日、北区制60周年ということでどんな形で打ち出すかという話があった。「観光で北区を訪れたら」「北区に住んだら」「健康になる」というのはどうか。「歩きたくなるまち 北区」という打ち出し方も一つだ。

■「健康になる（ウェルネス）・歩きたくなるまち 北区」

○委員

賀茂川べりや、北山通りというまちなかも歩きたくなるが、北山周辺トレイルを周ったり、自転車で走るとおもしろいと聞く。京都マラソンの参加者が実際に走るということもある。北区には「ウェルネス」という要素もある。北山街にも、フィットネス系、美容室・エステの関連の店舗も多い。「健康」や「美容」というキーワードが似合うまち。

また、北山通り周辺は神戸の芦屋の雰囲気モデルにしたと聞いたが、芦屋とちがうのは、一筋入るとトマトや野菜の畑があるところ。住宅もあり、不動産屋さんによると、住宅としても店舗としても人気があるということだ。

○部会長

北区のまちと「ウェルネス」というのはおもしろい。

○委員

今は、上賀茂神社までバスで行く人が多いが、以前はキャピタル東洋亭のところから上賀茂神社まで歩いて行ってもらう参道としたらどうかという話もあった。北山通りに参道として鳥居が建ったり、土産物屋があったらおもしろいと思う。北区は緑や公園が多いのも特徴だ。

○部会長

私が子どものころ遊んだゴーカードのある大宮交通公園がまだある。「イン・ザ・グリーン」というカフェもある。隣の左京区が「アカデミック」というイメージとするなら、北区は「ウェルネス」という打ち出しもありなのかもしれない。

○委員

北区を走るドライバーは、顔が穏やかだ。北区は、他区に比べて交通事故や犯罪も少ない。人間が穏やかといえるのかもしれないが、人や車の密度が適正なのかもしれない。

○委員

南の方の地域に比べると、北区では地上に電車が走っていない。踏切がない。それは、交通が不便だということにもなるが、「良さ」としても捉えられると思う。

○部会長

北区のまちのなかには、「ノイズ」が少ない。そういう意味で、私は、北区はノルウェーやフィンランドといった北欧のイメージと重なるところがある。特にヘルシンキ。寒いという共通点があるのかもしれないが、まちのバランスの良さが似ている。

○委員

昔、宅配ピザの仕事をしていたが、確かに山科などに比べて、家や人口の密度が低い。そういう意味では、商売になりにくいという要素がある。まちを走っているバイクが少ないことも実感した。

荒神口に「ランカフェ」の店があり、賀茂川を走る人が利用している。そこで着替えて、賀茂川を走り、シャワーを浴びて帰る。賀茂川を走ることを好む人は多い。

○部会長

今までのお話からすると、北区はウェルネスに向いているということが言える。先ほど、野菜栽培の話があったが、産直の野菜を食べるという「食」の面からの健康にもつながる。食育にもつながる。

2020年にオリンピックがあるのだから、北区の打ち出し方、メッセージとして「文化とウェルネスが一緒にある」ということが強みになる。観光ウェルネス、観光ラン。

○委員

鷹峯や上賀茂、西賀茂の野菜は、有名レストランがわざわざ買い付けにくる。地場野菜を使った飲食店というのも売りになる。最近は大原の道の駅にも上賀茂の野菜が売ってあり、人気があるそうだ。

○委員

鷹峯は琳派400年ということで色々やっているが、もともと土がいいところ。ミネラル分が多いというのは、味わいに関わる。

○委員

同じ九条ねぎでも、おいしい。

○委員

京野菜は海外でも通じるブランド力がある。漬物屋さんも多い。

○委員

北区には、千家会館や鷹峯・大徳寺といったお茶の要素もある。

○委員

北区には、いいものがたくさんあるので、観光戦略として英語で海外に発信ということも必要かもしれない。

○副区長

現状は、いいところを十分に情報発信できていないという残念な状況。

○委員

ずっと京都にいとその良さはなかなか分からない。外からの視点が必要だ。京都は人気があるが、初心者はウェブで見たものと同じものを京都に来て実際に見て喜ぶ。何度か京都に来るとそれでは飽き足りない。もっと掘り下げたもの、体験型の要素が要る。「食」も京野菜が海外でも認知された今、北区は京野菜の本拠地はここだと胸をはることができる。

○まちづくりアドバイザー

北区には、大徳寺の近くに古くからの新大宮商店街あり、その中には銭湯もある。下町らしさのようなものがある。

○委員

外国人にとったら、そんな場所も北山も大徳寺も魅力的だ。北区での観光は、「見る」「体験する」「走る」を打ち出したら、どうか。

○まちづくりアドバイザー

トレイルランニングというものもある。

○委員

雲ヶ畑地域は、休校施設も活用して、盛り上がっている。自転車で雲ヶ畑を訪れて京見峠を走って変速ギアを存分に使うコースになっていると聞く。

○委員

北山街にアウトドアフィットネスのお店をしている人がある。例えば、そんな人に相談してコースづくりをしたら、どうか。立命館大学自転車部には北区を回るコースがあると聞いた。

○部会長

フランスのツール・ド・フランスのミニ版のイメージで、自転車で北区の山の中を走るようなこともいい。立命館大学自転車部とフランスの京都市の姉妹都市の人と一緒に走るとか。

世界そのものが、ウェルネスに向かっているので、そこを打ち出したらいいい。「北区にあるもの全部がいい」というのはだめ。各ターゲットごとにピンポイントで伝えることが必要だ。

○委員

京都マラソンでは、北山通りを往復で走る。京都マラソン参加者から募集して「チーム北山」を作った。おそろいのシャツやサンバイザーをつけて走ってもらった。その取組が根付いて、信州や東京のマラソンでも参加してくれている。

○部会長

おもしろい取組だ。

そろそろまとめいくと、観光分野については優れているところを打ち出していくことが大切で、北区でなら、「体験」であり、特に「走る」「歩く」ということが要素となる。その他に「食」もある。北区内をぐるりと回ってもらうようになればよい。

○副区長

「北区」という名称は、他の政令市にもあり、損しているなと思う。

○部会長

各都市の北区が集まって「北区バトル」もいい。

○まちづくりアドバイザー

情報発信が重要になる。

○部会長

今はマスメディア・広報の時代ではない。ターゲットに狭く伝えていく。

賀茂川べりを歩くことの素晴らしさをどう伝えるか。

東京の30・40才代の女性は、着物を着て大徳寺のお茶会に出るために京都に来て、夜にお肉を食べて泊まり、賀茂川をランニングして、カフェでシャワーをして帰る。

これからは、北区のいいものをどう伝えていくかを考えていくしかけがいる。フェイスブック、動画、インターネットを使う。

先日の60周年記念事業の会議でも出たが、「あなたが思う北区」「あなたが好きな北区」を30秒の画像で送ってもらうのはどうか。例えば、自転車に乗って見つけた北区のいいところを応募してもらったらよい。いろんな視点で北区のよいところが見つかるのではないか。自転車で北区を回った映像を世界に流すのもよいかもかもしれない。

北区にある「たね」をどう咲かせるか。先日は、「シンク北区」としてみんなで考える場を60周年にしたらどうかという提案をさせていただいた。北区のまちのコンセプトになるのではないかと思う。

○委員

中国・台湾の人がたくさん北山通りの陶板の庭に来るが、そこからすぐに帰ってしまう。もったいないなと思っている。上賀茂まで足を延ばしてもらえそうなことができたらいいい。

○部会長

北山通りのまちあるきツアー（高松伸、安藤忠雄の建築をめぐる）に参加したが、とても面白かった。外国人にも知ってもらう仕組みがあればいいと思う。

○委員

観光バスのコースや修学旅行生にも、金閣寺だけで帰るのではなくて他のよいところを知ってもらうアピールが必要だと思う。

○部会長

京都に来る旅行客は、2回3回と来るうちにマニアックにある。ローコストで長く滞在し、いろいろな経験をして日常を楽しむことを望む。北区はぴったりだ。

<以上>